

9/13 防災サバイバルIT.hack with QIPTS の様子

2014年10月3日

先端IT活用推進コンソーシアム
Project LA コーディネーターズ

- 背景
- Project LAとSystem LA
- 九州IT&ITS推進協議会(QPITS)
- 「防災サバイバルIT.hack」の様子
- 評価
 - 「防災サバイバルIT.hack」として
 - 訓練として
 - 投稿行動分析
 - Project LA / CC研究として

- 目的
 - Project LAの成果を、会員外に試用していただき、技術の有用性を検証、評価する
- 経緯
 - 7/9 System LA開発者会議
 - 7/28 九州IT&ITS推進協議会(QPITS)との打ち合わせ
 - 7/29 QPITSとAITCとのアライアンス発表
 - 8/20 QPITSから開催案内公開、参加者募集開始
 - 8/22 System LA α4リリース
 - 9/13 「防災サバイバルIT.hack」開催

Project LAとSystem LA

- Project LA

テーマ: 「**知識から行動へ(Leads to Action)**」

「単に頭に入っている情報や知識に価値がある」状態から、「情報や知識を活用して行動し、日常生活に活かすことに真の価値がある」との考えに基づき、収集した情報を知識化し、行動を促す・行動を引き起こす仕組み作り

コンセプト: 「**近未来のソーシャルICTを発信**する」
全部会の活動成果の集結・連携させて実証する
既存の検索やSNSとは異なる第三極を目指す

- System LA

- Project LAのコンセプトを具現化するシステム(アプリケーション)であり、**平常時・非常時に併用**できるコンテンツを共創する

- 平常時と非常時のどちらも、『**高信頼性の情報**』をリアルタイムに集積

平常時: 確定情報の共有を前提とした知識の集積

非常時: 不確定情報に対する確定情報の蓄積

- **コンテンツ共創の基盤**

コミュニケーションが社会を変革する

- アプリケーション: LAクライアント「α4版」、LAブラウザ「途上版」

九州IT&ITS推進協議会(QPITS)

概要

- 2013年7月に発足、幹事会員:17、正会員:21、特別会員:12、賛助会員:10

コンセプト

2014年3月31日現在

- 東日本大震災の反省から、情報伝達遮断等の課題解決の為、強固で柔軟性の高い社会基盤作りが急務となっている現在。車だけではなくその全ての公共交通機関も含めた、九州内の産学官が一体となり、活気がある住みやすい街づくりを目指した次世代システムのグランドデザインを目指す必要性を見出し、この研究会を発足しました。

事業内容

1. IT&ITS 関連機関・企業からの情報収集事業
2. 地域におけるIT&ITS の必要性・可能性についての研究事業
3. 地域住民に対しての普及啓発活動事業
4. 地域のIT&ITS 関連産業の振興を図る事業
5. IT&ITS 技術・アイディアの総合的なネットワークを構築する事業
6. 地域の道路事情の調査・分析及び交通事情の改善を図る事業
7. 交通及びIT 全般に関する事業
8. ITを使ったエネルギー・福祉・地域振興・環境・設備監視・子育て支援・観光・農業等の支援事業



「<http://qpits7.jp/>」より引用

防災サバイバルIT.hack

募集

趣旨

近年、ゲリラ豪雨や台風など集中豪雨による洪水や突風などの災害もテレビや新聞で目にする機会が増えています。こうした集中豪雨が発生したときに、どのように自分自身の安全を確保し、行動すればよいのでしょうか？そのための一つの手段として、東京で活動している企業団体 先端IT活用推進コンソーシアムでは実証実験用プロトタイプシステム「System LA」を開発しました。今回はこの「System LA α版」と過去の集中豪雨のデータを用いたシミュレーションと、より実践的な災害発生時のIT活用についてのアイデアソン（意見交換）を開催します。防災をテーマに、東京と北九州・福岡のITエンジニアやITに関わる皆様の交流の機会とし、また最先端のIT動向に触れる機会としていただければ幸いです。

参加費

- ・ ワークショップ: 1000円(ドリンク&スナック、備品費)
- ・ 懇親会: キャッシュオン・デリバリー

対象

- ・ ITエンジニア
- ・ IT関連の事業/業務に取り組まれている方

参加者

－ AITC: 7名

－ QPITS&一般: 15名(20～60歳代)

- ・ PC/Mac 12、iOS 4、Android 2、ChromeBook 1



プログラム

- 第一部 13:30～16:30
 - 気象災害シミュレーション
 - オープニング
 - アイスブレイク
 - AITCの紹介
 - 趣旨説明
 - Project LAとSystem LAの説明
 - System LAの使い方
 - 新宮市周辺の観光案内
 - 防災訓練の前に
 - 防災訓練シナリオ
 - 防災訓練振り返り
 - 総評
- 第二部 16:45～18:30
 - 防災サバイバルITアイディアソン(意見交換)(ワールドカフェ形式)
 - アイディアソン
 - まとめ
- 懇親会 19:00～

場所: 北九州市小倉



小倉駅



小倉城



コワーキングスペース

- 秘密基地



グラウンドルール

グラウンドルール

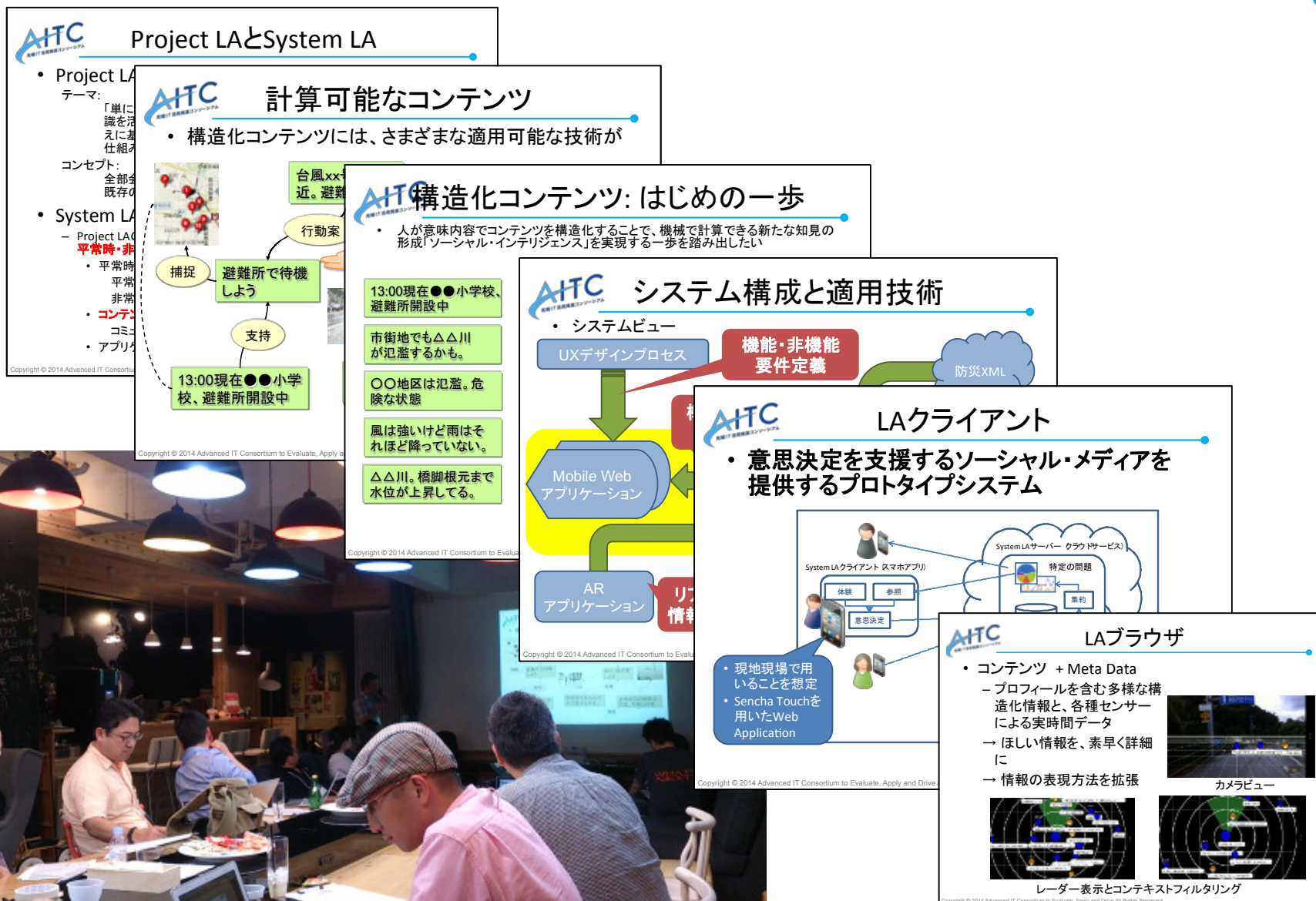
- お仕事のことはちょっと忘れて。
- 「なんでこんなことやっているんだろう？」といった勘繰りや意図の深読みは、終わったあとで。
- 自分の立場やこだわり、背景も横において。
- 間違っているかどうかを気にする必要はありません。
- この場にいる誰もが公平です。
- 自分が感じること、思うことは素直に、そのまま言葉に。
- けれども、あまり一人で長話をご遠慮ください。
- この場で聞いたキワドイお話は、この場限りに。
- そしてなにより、この時間を楽しんでください！！

開催趣旨

開催の趣旨

- 参加者のみなさまへ
 - 豪雨による災害リスクの実態を疑似的に体験していただき、それぞれの暮らす地域での風水害に対する問題意識の再確認をしていただく
 - 災害発生時のIT活用のあり方について議論
 - AITCの提案するコンセプト
 - ワークショップに参加すること自体を楽しんでいただき、新しいつながりを得ていただく
- 主催者として
 - 提案するコンセプトの有効性に関する評価を得る
 - ユーザ視点からのシステムに対するフィードバックを得る

Project LAのコンセプト



防災訓練の進め方

- 防災訓練のルールと役割分担、SystemLAの使い方の説明
 - 2011年の台風12号の実データをもとに仮想的に体験
 - 1.5日を2時間の早送り
 - 訓練未経験者は、土地勘のない市街地への旅行者・出張者を演じる



シナリオの狙い

- 概要

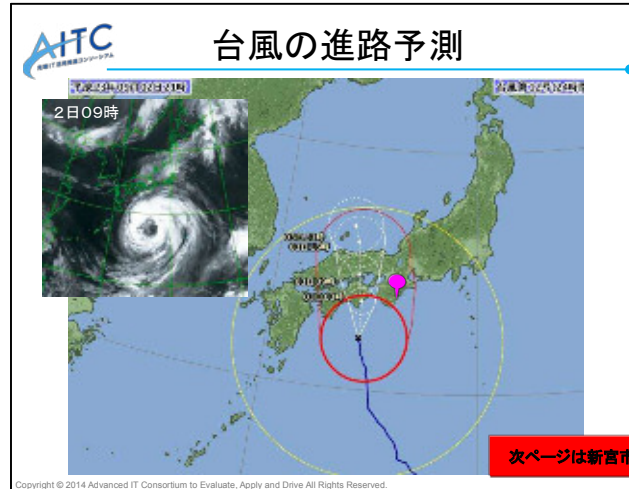
- 旅行中・出張中に、あまり土地勘のない地域で台風
の被害に遭遇する
- 台風は直撃するわけではないが、前線の影響により、
山間部では豪雨となって河川が氾濫する
- 旅行・出張先である市街地は、氾濫した河川の下流
にあたり、雨は激しくない、やがて街が水没していく

- 狙い

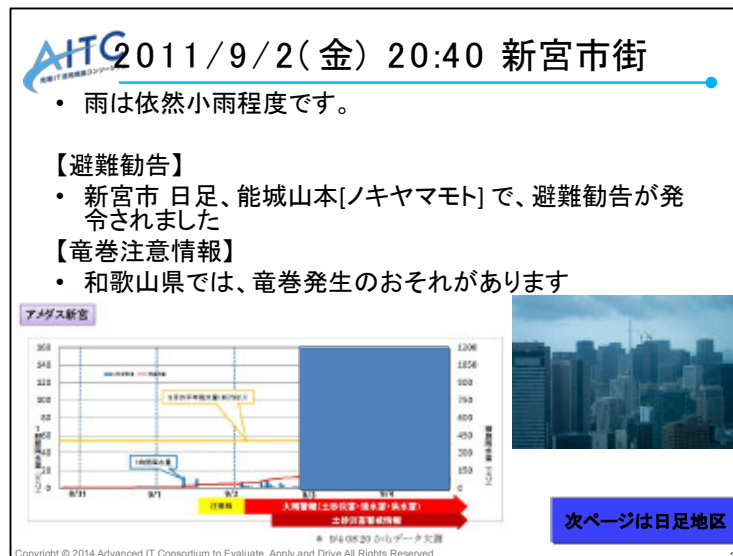
- 自身の安全を確保するために必要な情報を取捨選
択する
- 自分の見解を発信し、コミュニティで情報を共有する
ことで、自身の行動を考える
 - 事実の把握と理解
 - 発信する情報の内容と質に対する気づき
 - System LAによる「鳥の目」、「魚の目」機能の活用

提供する情報

共有情報



地域固有の情報



シナリオ進行中



総評

- ふりかえりと気象情報に関する知識
 - 最終的な雨量と水位
 - 熊野川の氾濫の様子
 - 気象情報の流れから
 - 気象情報と災害発生の地理的・時間的關係性



アイデアソン

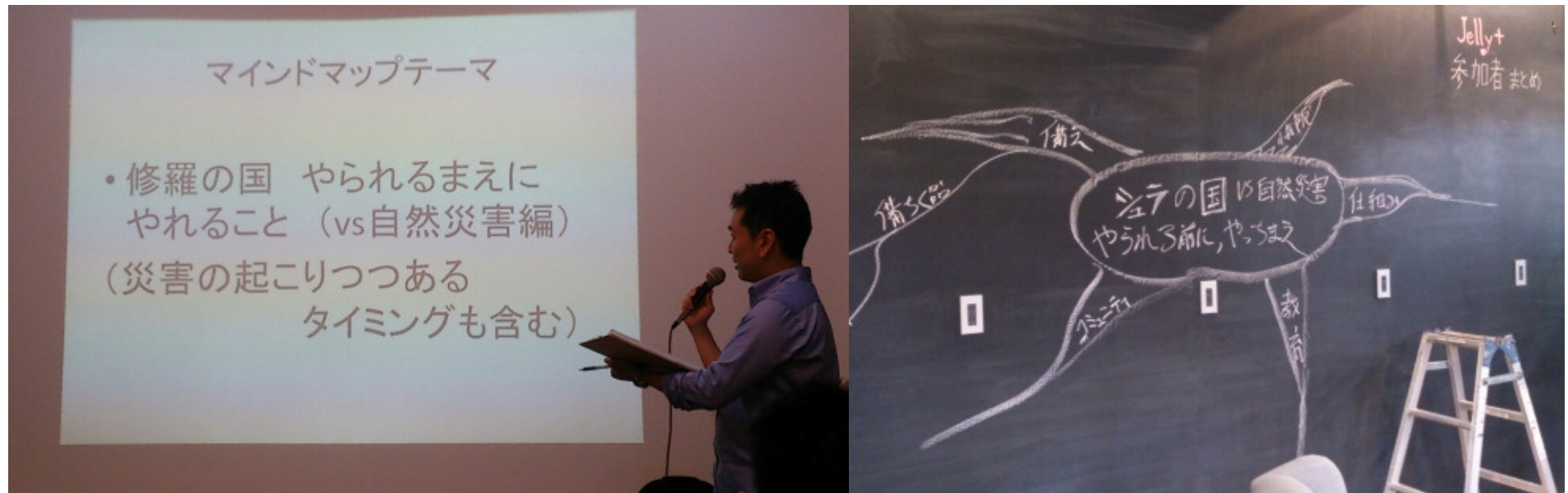


アイデアソン

- System LAを使ってみての率直な感想は
 - 実際に気象情報を聞き流してしまうというシチュエーションと、シナリオ上で情報の取得が半端になると言う状況は、現実として似通っている
 - 東日本大震災でも生活依存の情報が多く流通したという実績もある
 - 災害時に必要な情報だけを取れるかというのは課題
 - 遠くの大雨により河川の水位が上がるというのは、個人にかかる状況として捕捉しにくい
- どんなことを学んだか、気づいたこと(わかったこと)
 - 昔、新宮の川原では、家ごと避難できる家に住んでいた
 - 長い期間では、災害は地域ごとにサイクリックである
 - 歴史があるところには情報がある
 - 情報が集まったとしても、自分に関わるリスクの理解は難しい
- 明日災害が起きたとしたら、生き残ることができるか
それを考えた時に何ができるか
 - 災害は常に想定外であり、いろいろなことを想定しておくことが重要
- 今後、どうしていくか
 - 昔と違い、今はリスク情報が取得できる時代となっている

テーマ

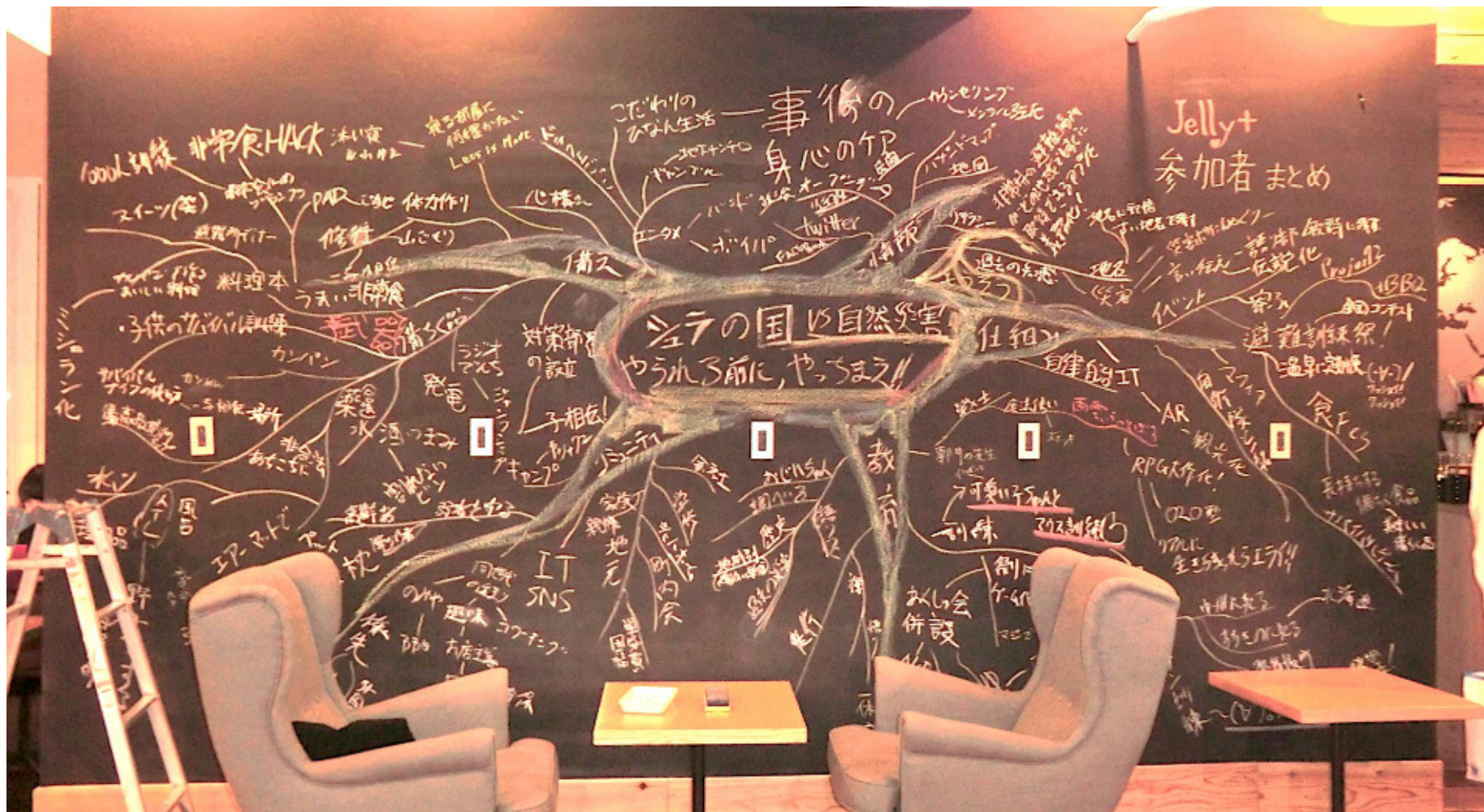
シュラの国 vs 自然災害 やられるまえにやっちまえ！



まとめ作業



結果



- 評価

- － 開催の趣旨は、ほぼ満たされた (参加者のヒアリングから)

- 実体験し、それなりの経験をした上で、防災を語るという流れは各自が意識をもって、また意見を持ってそのまま討論できるので、流れとして非常に良かった。
 - 防災専門家としての東さんのリードが非常によく、背景となる知識や、専門家としてのとりまとめも良く、全体として良くまとまったイベントで終わらせられた。
 - 参加者としても防災に対する知識なども得られ、また IT 関係者としては開発案件と防災との係わり合いがある場合に、どういうことを考えるのかというきっかけになりえたと思う。そして、一般市民として、日常からいろいろな「想定」をしておくきっかけになったと考えられる。

訓練として

- 評価

- 改善は必要だが、「訓練」としては、多くの参加者に以下のような「体験・知識」を提供できた

- 防災に対する日ごろの意識や情報収集の実施の重要性
- 気象情報の流れ方
- 気象情報と災害発生の地理的・時間的關係性
- 「防災アプリケーション」というものの捉え方

- 改善点

- System LAのコンセプト・機能の理解のための手段提供
- 参加者が浸れるような初期状況・前提条件の説明
- 参加者個々人の経緯・結果の共有とレビュー
- 早期に避難した参加者へのフォロー
 - 「ゲーム性の高いドラマチックな展開がほしい」との意見も、、、

投稿行動の分析

概要

市街地/未経験者

- 15名(旅行者、出張者)
- 投稿数: 164 [15/27/10/15/0/23/9/10/9/5/15/10/0/16]
- 閲覧: 327/1004

市街地/経験者

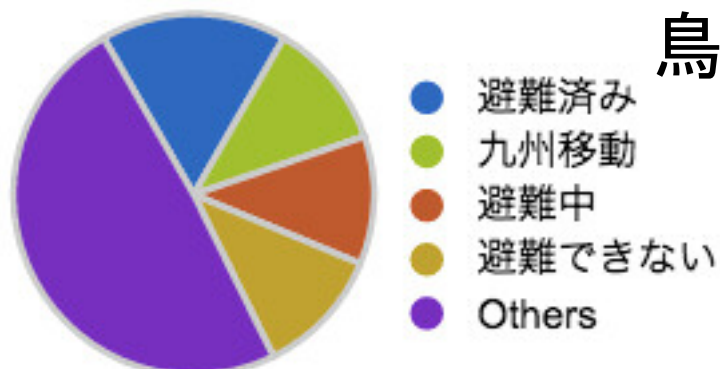
- 3名(地元の人、旅行者)
- 投稿数: 38 [13/1/24]
- 閲覧: 527/332

山間部/経験者

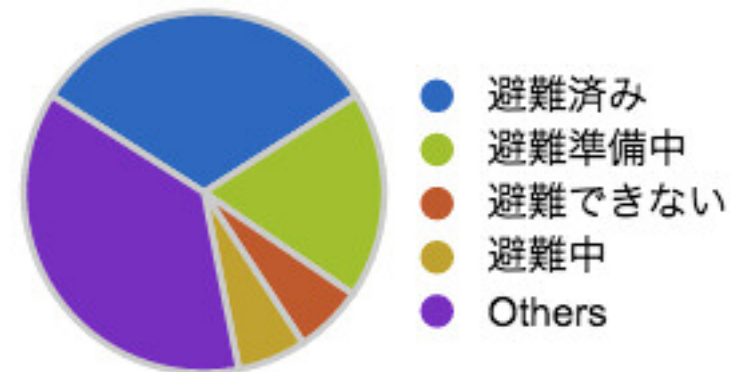
- 4名(地元の人)
- 投稿数: 96 [22/17/42/15]
- 閲覧: 347/183

サーバへのメッセージ総数: 4934/2H

- ✓ PeopleLikeMe=Onで「すべてを表示」から、投稿というスタイルが約80%
 - ✓ 山間部の投稿はあまり参照されず
- ✓ 当初は、様々な戸惑いがあったが、次第に理解され、積極的に参加
- ✓ 投稿に至らない脱落者が3名

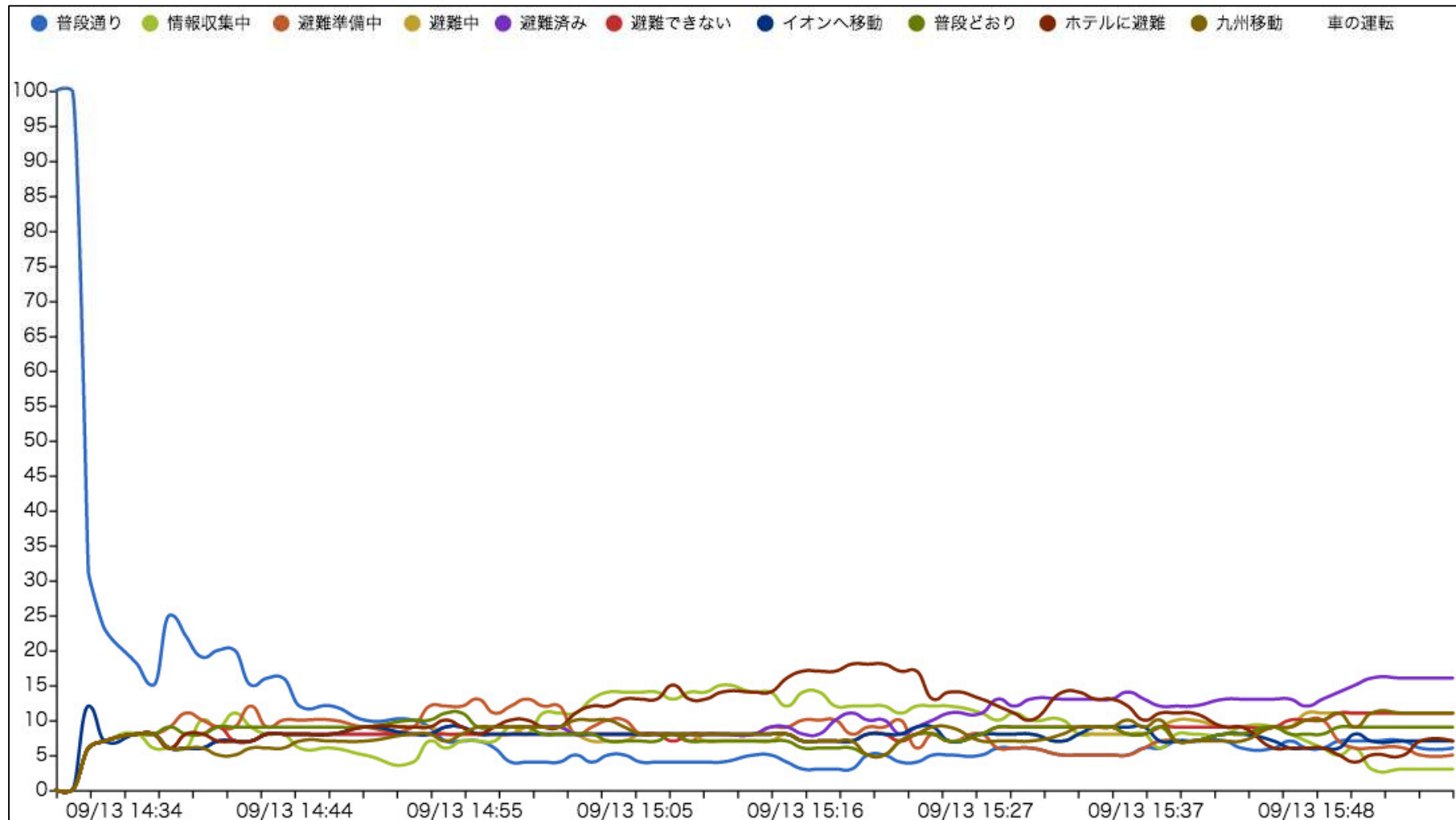


市街地



山間部

魚の目



Project LA / CC研として

- 評価

- 22名の同時利用でもSystem LAが快調に動作!!
- 集約/鳥の目・魚の目はうまく機能しなかった
 - コンセプトの理解
 - 関心項目の評価(ネガティブ/ポジティブ)が難しい
 - 意味、影響・反映
 - 関心項目が増えた時の集約
 - 操作性への不満
- コミュニティによる新たな解決案の提示と展開
 - 「今どうしている」ではなく、「今どうすべき/しないべき」
 - 地域柄か防災リテラシーが高く、早い時間帯で、避難場所を確認し、食糧、バッテリーなどを確保
 - 「九州へ移動」- 移動手段、経路



<http://aitc.jp>



<https://www.facebook.com/aitc.jp>



ハルミン

AITC非公式イメージキャラクター